

馬主だより

第 6 7 号

平成26年10月10日
発行 (一社)ばんえい競馬
馬主協会事務局

☆発売額前年比 12.67%増インターネット投票【SPAT4】が好調！！

▼十勝では朝の気温も一桁の日が多くなって参りました。山々では針葉樹と広葉樹が織り成す深緑と紅葉のコントラストもちょうど良く色付いています。今月中旬以降は紅葉も見ごろとなるでしょう。いよいよ収穫の秋です、秋刀魚やきのこや果物など、美味しい旬の味覚を沢山味わうことのできる季節を迎えました。▼ばんえい競馬の今季開催も丁度折り返し地点、発売額は好調さを維持し60億円を越す勢い。予算対比 18.43%増、前年対比でも 12.67%増と上半期の成績ではこれまでにないくらい好調です。その中でも相変わらずインターネット投票の伸びが全体の発売を押し上げ、特に南関東の「SPAT4」による売上げがこれまで1日平均 1,180 万円(前年同期 523 万円)を発売しており、更に発売日が前年度より 21 日も増えた事が好調の要因の一つとなっています。まだまだこれから「伸び代」が期待できます。▼今年の重賞競走実施日には発売額が1億円を突破する日も増えてきています。10月、11月は重賞競走も目白押し。ナナカマド賞、北見記念、ばんえい菊花賞、クインカップ、ドリームエイジカップ、ばんえいオークスなどのレースが予定されております。▼十勝の美味しい食べ物や豊かな自然をゆっくりと満喫するため、紅葉をご鑑賞になりながら、是非、帯広競馬場までお出かけください！！

平成26年度 ばんえい競馬 発売成績(累計)

開催77日間

CB 事業推進課投票グループ資料提供

平成26年10月6日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成26年度			平成25年度		対 比		
	日数	発売額	予算額	日数	発売額	予算	前年	
本 場	77	768,355,800	677,634,200	77	794,685,500	113.39	96.69	
直 営 場 外	旭川北彩都	77	448,525,800	425,244,200	77	479,651,200	105.47	93.51
	ミトスポット北見	77	190,390,100	215,263,600	77	242,728,400	88.45	78.44
	ハロンス岩見沢	77	133,860,700	122,731,100	77	158,584,000	109.07	84.41
	ハロンス釧路	77	61,509,300	54,643,900	77	68,592,200	112.56	89.67
	ハロンス名寄	77	67,424,100	61,742,500	77	77,854,600	109.20	86.60
	アプスポット網走	77	59,146,900	68,585,200	77	75,203,200	86.24	78.65
	琴似駅前	77	66,897,300	52,897,900	77	52,111,700	126.46	128.37
	イルムふかがわ	77	62,840,200	72,581,700	18	17,863,400	86.58	351.78
電 投	オッズパーク	77	2,100,134,200	1,842,423,200	77	1,822,109,200	113.99	115.26
	OP(七重勝)	77	11,383,700	38,962,000	77	29,233,500	66.82	38.94
	OP(五重勝)	77	14,650,700		77	20,597,300		71.13
	競馬モール	77	1,376,867,500	1,060,413,800	77	1,000,264,700	129.84	137.65
	SPAT4	29	342,269,000	116,242,300	8	41,871,100	294.44	817.43
広域場間場外	—	593,481,000	508,481,800	—	708,423,300	116.72	83.77	
場外・電投計	—	5,529,380,500	4,640,213,200	—	4,795,087,800	119.16	115.31	
合 計	77	6,297,736,300	5,317,847,400	77	5,589,773,500	118.43	112.67	
1日平均		81,788,783	69,062,953		72,594,458	118.43	112.67	

平成26年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第13回6日目まで77日間)

平成25年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第13回6日目まで77日間)

情報・ご案内

○ 8月6日馬伝染性貧血検査(自主検査)実施！

～競馬場在きゅう馬462頭全頭陰性～

馬伝染性貧血検査は、帯広市が示す「平成 26 年度競走馬の予防接種計画」に基づき、例年 8 月中に帯広競馬場在きゅう馬全頭(能力受検馬も含む)実施するよう指示されており、去る平成 26 年 8 月 6 日(水)に帯広競馬場に於いて在きゅう馬462頭の採血を行い、同月 8 日に十勝家畜保健衛生所で自主検査を実施いたしました。検査の結果については、全頭陰性でした。

なお、競馬場における自主検査料金は次のとおりです。

▼ 馬伝染性貧血検査料金 一頭 470円(採血料金は、別途、診療所から請求となります。)

注：今回の検査は、あくまでも在きゅう条件を満たすための検査であり、公的機関から証明書が発行されるものではありません。別途、証明書が必要な場合は、改めて検査を受ける必要がありますので、ご注意願います。

(参考料金：特殊血清反応検査3, 050円+証明書料500円+採血料金)

○ 第16回北海道総合畜産共進会 9月6日、7日の2日間で開催！！

～農用馬部門には前回は上回る32頭が出品される～

北海道総合畜産共進会は、北海道の馬産振興を図るため、道内で飼養されている優良な馬の展示を行い、飼養者に具体的な飼養管理並びに改良増殖・保存活用の目標を与えその生産意欲を高めることによって、馬産の安定的発展に資することを目的として4年毎に開催しております。

今年で第16回を迎えることとなった当該共進会は、去る平成26年9月6日(土)、7日(日)の2日間に亘、音更町の十勝農業協同組合連合会家畜共進会場に於いて、肉用牛部門と同時に馬部門として開催されました。

馬部門には、農用馬の部、北海道和種・ポニーの部があり、農用馬の部は、第1部農用馬1歳雌、第2部農用馬1歳雄、第3部農用馬2歳雌、第4部農用馬3歳以上雌(子付)の4部構成で出品頭数は合計で32頭と前回は上回る頭数となりました。

農用馬の部の審査は、独立行政法人家畜改良センターの技術部管理課長 岡明男様が審査委員に、また、副審査委員に独立行政法人家畜改良センター十勝牧場の業務第二課馬係長の 久保 喜広様の2名で審査が行われました。

農用馬の部の最高位は、第4部農用馬3歳以上雌(子付)に出品されましたウィナークイン号(出品者：上士幌町 鈴木 義尚様)が選ばれました。

○ 帯広市議会 産業経済委員会で報告！

～北電の電気料金値上げで“年間1千万円”負担増の見通し示す～

平成26年9月16日帯広市議会の産業経済委員会が開催され、帯広市は北電の電気料金値上げによる影響で、ばんえい競馬の電気代負担増が年間1千万円に上るとの試算を報告しました。

北電は10月から、企業向けで平均22.61%の電気料金再値上げを計画しているが、帯広市は今年度、ばんえい競馬開催に関わる帯広競馬場における電気代として

5,200 万円を予算計上(場外発売所分を除く)。契約期間等の関係で今年度の影響額は 70 万円程度ですが、来年度は 1 千万円の負担増となる見通しを示しました。

また、農政部ばんえい振興室から、この対応策として、本走路のナイター設備を省エネ効果の期待が出来るLED(発光ダイオード)にするため、現在、調査研究をしている旨、説明がありました。

○ **ばんえい競馬場での祭典「2014 とかちばん馬まつり」開催！！**

～ワールド人間ばん馬チャンピオンシップ“世界大会”優勝は北大陸上部に～

今年も“2014 とかちばん馬まつり”が 10 月 4 日(土)、5 日(日)の両日に帯広競馬場に於いて開催されました。競馬場全体を使い多彩なイベントや物産などの出店があり、大勢のお客様で賑わいました。

今年で第8回目を迎える、メインイベントの「ワールド人間ばん馬チャンピオンシップ【世界大会】」では、過去最高の 28 チームが国内外から参加し、予選タイム上位5チームによる決勝では、北大陸上部でつくる「トロ with ネコバス」が初優勝を果たし賞金 88 万円を獲得しました。また、昨年からはまった 20 歳以上の女性限定の人間ダービー「ヒロインズカップ」が行われ、市内や兵庫県など 22 歳から 40 歳までの 27 人が出場しました。見事優勝したのは、こちらも北大工学部4年で同大学陸上部の一瀬 輪子さん(22)が、昨年の優勝タイム 41.7 秒を大幅に更新する 37 秒でゴールし賞金 8 万 8 千円を手に入れました。

また、当協会では、協賛イベントとして先着で各日 200 名様に単勝 200 円の「おみくじ馬券」をプレゼント。Wチャンスとしてその中から抽選で 50 名様には、土屋特殊農機具製作所で生産された 100%無農薬野菜「マルチリーフクイーン」をプレゼント。第 1 レースの馬券を握りしめ、ばんえい競馬を楽しんで頂きました。

“ばん馬まつり”は年々盛り上がりを見せておりますが、今年は秋晴れの気持ち良い天候にも恵まれ大盛況となりました。

○ **“還暦の星” コトブキライアン号14歳5ヵ月！！**

～ばんえい史上最高齢勝利 最多出走記録も更新中！～

本年 9 月 21 日(日)に行われたばんえい競馬帯広第 12 回第 5 日目第 5 レースにおいて、単勝 2 番人気のコトブキライアン号(牡、金山 明彦調教師、浅田 達矢騎手)が 14 歳 5 ヵ月で勝利しました。(人間でいえば約 60 歳還暦に当たるそうです！)

この勝利は、2011 年 6 月 19 日に“中高年の星”として人気を集めたゴールドデンバージ号の 14 歳 1 ヵ月の勝利を超えるばんえい史上最高齢での勝利記録となりました。

コトブキライアン号は 2002 年 6 月 1 日にデビュー、昨年 7 月以来となる約 1 年 2 ヵ月ぶりの勝利。また、昨年 6 月には、ばんえい競馬史上最多出走記録を更新し、現在も日々その記録を伸ばしています。

＜コトブキライアン号のプロフィール＞ ※2014 年 9 月 21 日現在	
生年月日・毛色	: 2000 年 4 月 13 日 (牡 14 歳・鹿毛)
血統	: 父 一番 母 松乃宝 (母父) マツノコトブキ
生産者	: 佐藤 仁志氏
馬主	: 長尾 敬子氏
厩舎	: 金山明彦厩舎
通算成績	: 429 戦 36 勝

○ **平成26年度の馬登録申請日程決まる！！**

～11月から申請受付開始 各調教師を通じ申請してください～

馬登録申請の日程について、別紙「馬登録申請日程」のとおり地方競馬全国協会から通知がありましたのでご確認ください。なお、申請書は、必ず預託予定の調教師を通じて必要書類を添え期限までにご提出ください。

なお、登録検査の日程につきましては、改めてご連絡いたします。

1. 申請月日 平成26年11月1日（土）～27年2月28日（土）
2. 申請場所 帯広競馬場 地方競馬全国協会駐在員詰所
（発走員室・駐在員勤務日）
3. 登録料 1頭につき2,000円

馬登録申請に関するお問い合わせ

0155-34-0825（帯広競馬場代表）

地方競馬全国協会 駐在員 佐々木 智

注：駐在員の勤務日は別途競馬場に掲示しています。あらかじめ調教師にご確認ください。

○ **平成26年度全道祭典ばんば1歳馬決勝大会 今年も開催します！**

北海道輓用馬振興対策協議会は、輓用馬の生産振興と資源確保を目的に、道内における市町村ばんば大会等で優秀な成績を収めている馬を選抜し、例年、帯広競馬場において「全道祭典ばんば1歳馬決勝大会」を開催しています。

今年度は、10月25日（土）、26日（日）の2日間で開催を計画しております。

なお、開催要領等については次のとおりです。

- 【大会名】 「平成26年度全道祭典ばんば1歳馬決勝大会」
- 【主催】 北海道輓用馬振興対策協議会
- 【開催月日】 平成26年10月25日・26日（2日間）
- 【出場頭数】 第1日目 平成26年10月25日（土） 雌10頭（予定）
第2日目 平成26年10月26日（日） 雄10頭（予定）
- 【開催場所】 帯広競馬場
- 【出場地区】 釧路地区、根室地区、十勝地区は雄雌各2頭。上川地区、北見地区、日胆地区、道南地区（馬主協会推薦）からは、雄雌各1頭の計20頭。

レース情報

○ **重賞競走の結果**

月 日	重 賞 名	馬 名	馬 主	調教師
8月24日	第39回 ばんえい大賞典	カイシゲキ	丹治 満夫	槻館 重人
9月14日	第22回 銀河賞	オレノココロ	大森 勝廣	槻館 重人
9月28日	第50回 岩見沢記念	ホクショウユウキ	井内 昭夫	岡田 定一

優勝おめでとうございます！！

◆ 第 39 回ばんえい大賞典（3歳オープン）

8月24日(日)は3歳三冠初戦・ばんえい大賞典が行われ、単勝2番人気のカインゲキが勝利。はまなす賞(2着)に続く2度目の重賞挑戦で、見事にタイトルを獲得しました。

牝馬20キロ減を含め、ハンデ差は最大でも30キロ。牝馬の活躍も目立つこの一戦ですが、オッズからは牡馬優勢ムード。ハンデを利した馬が制すのか、それとも地力ある馬がねじ伏せるのか。3.0%と多少湿った馬場の中、注目のスタートが切られました。馬群を引っ張ったのはカインゲキ、キサラク、ブラックニセイ。中間点あたりまでは勢いよく進んだものの、その後は細かく刻み、ほぼ横一線の状態で第2障害を迎えました。

最初に仕掛けたのはハクタイホウで、それを見てカインゲキも登坂を開始。他馬も続々と仕掛けますが、先に仕掛けた2頭が難なく突破。やや遅れてカンシャノココロ、そしてシンザンボーイと続きました。

しかし先頭の2頭は軽快に脚を伸ばし、マッチレースの様相。一進一退の攻防を繰り返しながらゴールを目指します。残り15メートル付近ではハクタイホウの脚いろがよく見えたが、残り10メートルを過ぎたところでガクッとペースが落ち、ここでカインゲキがクビほどリード。ハクタイホウも懸命に食い下がりますが、その差はいつこうに詰まらず、結局1秒7差をつけてカインゲキが先頭でゴールを果たしました。ハクタイホウから4秒9遅れた3着には、カンシャノココロが入線しました。

カインゲキはこれで今季【5・5・1・0】。その名前のおり、まさに快進撃を見せて初タイトルをゲットしました。前走のはまなす賞は重量に恵まれた印象もありましたが、最後に差し返した今回のレースぶりからも、着実に力をつけている様子がうかがえました。今後は逆に重量を課せられる立場となりますが、それでも快進撃を続けられるか、この馬の真価が問われることになりそうです。

◆ 第 22 回銀河賞（4歳オープン）

9月14日(日)は重賞・銀河賞(4歳オープン)が行われ、単勝4番人気のオレノココロが優勝。この世代のダービー馬が意地を見せ、重賞3勝目を挙げました。

牝馬20キロ減もあって、別定700キロで出走できた2頭クインフェスタ、セイコークインが1、2番人気。710キロのホクショウサスケが3番人気。これに実績最上位で、740キロのオレノココロがどう挑むか。馬場水分2.8パーセントの中、スタートが切られました。

道中はセイコークイン、クインフェスタなど軽量馬がペースを握り、ソウケンボーイもこの一角。わずかにナナノチカラとイッキフジが遅れましたが他馬は離れず追走し、そのままの態勢で第2障害を迎えました。

先鞭をつけたのはクインフェスタ。遅れまじとソウケンボーイ、セイコークイン、ダイコクパワー、オレノココロも仕掛けます。中でも抜群の登坂を見せたのがオレノココロ。多少重量に苦しんで体勢を崩しながらも、先頭で障害を突破しました。クインフェスタとコウシュハウカイが並んで下り、セイコークイン、ホクショウサスケ、ソウケンボーイの3頭が横一線でクリアしました。

その後は各馬が入り乱れる大混戦。しかし、これが底力なのか、オレノココロは後続との差を保ちながら先頭をひた走ります。そして、その驚異的な粘りはゴールまで

続き、2着のホクショウサスケに1秒差をつけて荷物を運び切りました。最後に混戦から抜け出しのがホクショウサスケで、その1秒8差3着にコウシュハウンカイが入りました。

トップハンデ740キロだけに苦戦が強いられると思われたオレノココロが、地力の高さを見せつけました。しかも、障害を先頭でクリアして押し切る正攻法で勝利。世代王者にふさわしい勝ち方でした。今後さらに重量を課せられるだけに厳しい戦いが続くと思われませんが、それも真の王者となるための試練。そのレースぶりに注目していきたいと思います。

ホクショウサスケは重量に恵まれたのも確かですが、最後に力を振り絞って脚を伸ばしたレース内容に成長ぶりがうかがえました。今後、重量を課せられても軽くは扱えそうにありません。

◆ 第50回岩見沢記念（3歳以上オープン）

9月28日(日)は重賞・岩見沢記念(3歳以上オープン)が行われ、単勝9番人気の伏兵ホクショウユウキが優勝。昨年の4歳チャンプが古馬重賞初制覇を果たし、一躍頂点をうかがう存在となりました。

今シーズンの重賞で安定した走りを見せるフジダイビクトリーが850キロ、ニュータカラコマが840キロと荷物を積まれ、実績馬インフィニティーが820キロ、キタノタイショウも830キロ止まり。勢いか地力か、非常に興味深い重量設定が混戦に拍車をかけるなか、馬場水分2.1%でスタートが切られました。

ペースメーカー不在で、各馬とも互いに相手の出方をうかがいながらのレース。後方待機策のホツカイヒカルを除く9頭が横一線で進み、そのままの隊形で第2障害を迎えました。

最初に仕掛けたのはインフィニティーで、軽量を生かして先手を打ちます。しかし他馬が続々と仕掛け、なかでもともに820キロのホクショウユウキとニシキエーカンが抜群の登坂力を発揮。この2頭が続けざまに下りて、逃げ込みを図ります。やや遅れて、オイドン、キタノタイショウ、インフィニティーがクリアし、追撃態勢に入りました。

先頭の2頭は抜きつ抜かれつ、デッドヒートを展開。しかし残り10メートルを切ったところでニシキエーカンがストップ。対するホクショウユウキは脚いろこそ鈍っていたものの懸命に歩き続け、そのまま先頭でゴールを果たしました。ゴール直前でニシキエーカンを交わしたキタノタイショウが2着で入線。見せ場たっぷりだったニシキエーカンが3着となりました。

勝ったホクショウユウキは、これが重賞5勝目。その実績から考えれば9番人気というのは低評価でしたが、出走取り消しを挟み近2走がともに9着という近況からは仕方のないところでしょう。ただ、先頭クリアから終始主導権を握り、ニシキエーカンをいったん引き付けながら最後に突き放すというレースぶりは、地力の高さの証明。今後もこうした余裕のあるレース運びができれば、さらにタイトルを積み重ねられるはずです。

2着のキタノタイショウは実績のわりに重量に恵まれた印象。それでもゴール直前で見せた鋭い末脚は、さすがのひとつで、今後の重賞戦線でも軽視は禁物です。

※ レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。